

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570600298		
法人名	医療法人社団慶城会		
事業所名	グループホーム仰星台	ユニット名	2号館
所在地	日向市大字塩見10946-1		
自己評価作成日	H24年5月15日	評価結果市町村受理日	平成24年7月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4570600298&SCD=320&PCD=45
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成24年6月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を職員全員で作りにあげている。地域の中で、その人らしく暮らしていけるような、一人ひとりの個性や尊厳を重視した理念となっている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや清掃活動の参加、また、地域の行事の際は届け物をしたり、災害時は、避難場所として受け入れが出来る事を伝えています。ホームの夕涼み会や餅つき大会にも、地区の方々が参加をされいろいろ教えてもらっています。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	講演やホームの行事の参加をつのることにより、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、グループホームの現状を報告したり、メンバーの中から出された意見に対して、改善できるところは早急に改善できるようにし、次回の会議につなげています。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市の担当者が参加されており、要望や意見をもらったり、わからないことなどを相談し、助言をいただいています。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者や職員は、居室や玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は鍵をかけないで見守りを行い、安全性に配慮しています。また、近隣の方々にも理解していただき、声かけや連絡をもらえるように、関係が築かれています。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等での話し合いや研修に参加をしたり、市町村との連携を図り、虐待が見過ごされる事がないように、防止に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加をし、制度については学んでいる。職員には、研修報告を行い、情報を伝えています。現在、それらの制度が必要な利用者はいません。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行い、グループホームの内容を理解していただけるように努めています。また、面会時等にも家族の言葉に耳を傾け、不安や疑問にも素直に応じるように、努めています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者ご家族が不満や苦情、相談をいつでも気軽に言ってもらえるような雰囲気や言いやすい関係を築けるように心掛けています。また、外部では支援事業所が窓口になっていることを伝え、苦情があった際は、問題解決に努めます。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、または必要時に、ミーティングを開催し、職員間で意見交換をしています。職員は、率直な意見を述べられていると思う。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが努力している事や能力が発揮できるような環境に努めています。各自のスキルが認められることで、向上心を持ち、勤務が出来ていると思います。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が均等に研修に参加出来るように計画しています。また、資格取得ができるように、関連施設合同の勉強会が実施されています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、二ヶ月に1回、関連施設の勉強会、または県北のグループホームの研修会に参加をし、同業者との交流をする機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の多くが法人内施設からの入居となっており、職員も普段から交流を図るよう努めたり、入居前に利用者や家族にホーム内を見学してもらうなど、不安を取り除く工夫をしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時や入所時に、本人や家族の困っている事や要望に対し、相談に応じています。それに対する支援方針等を説明し、実践することで信頼関係に努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との初期面接の中で、出来るだけ詳細な情報を引き出し、本当に必要なサービスが提供できるように対応しています。他のサービスや相談窓口についても説明を行っています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者からお寿司や団子の作り方で味付けや分量を学んだり、また、畑仕事（野菜作り）では、季節の野菜や肥料の入れ方や他にも詩吟を学ぶなど、人生の経験者として学び、ともに支えあう関係に努めています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や誕生会に参加をしていただいたり、面会時に本人の様子や気持ちを伝え、家族と話す時間が多く持てるように心掛けています。また、家族が毎日の食事介助に来られたり、家族と外出して、食事や買い物、磯遊び、カラオケと楽しんでいる方もいます。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の中に卓球仲間がいらして、行事の時などこられたり、買い物も本人がよく行っていた店などを選んでいきます。利用者の中には、行きつけの美容室があり、定期的に行かれています。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでは、椅子の配置などを工夫しながら、共同作業やレクなどを取り入れています。また、落ち着きのない利用者に話しかけてくれたり、面倒を見てくれたりと、利用者同士が支え合っています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所された後も、時々訪問をしたり、相談等にも必要に応じて、対応をしています。また、入院されている方には、利用者と一緒に顔を見に行っています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに声かけを行う中で、話の中から想いを引き出す努力をしています。また、意思表示の出来ない利用者に対しては、表情や態度で思いを引き出し、情報を共有しながら支援に取り組んでいます。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所以前の生活歴を家族に聞いたり、本人の話の中から生活歴を聞けるように努めています。また、馴染みのある暮らしが少しでも出来るように、利用者がこれまで使ってきた家具類や食器類などを家族にお願いをしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態を把握し、利用者が身体的にも精神的にも苦痛が伴わないように、一人ひとりのペースや体調に合わせ、ゆとりを持って対応をしています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作るうえで、本人やご家族に希望を聞き、また、ミーティングの中で、本人がよりよく暮らすための課題とケアのあり方について話し合いを持ち、計画を作成しています。評価をしながら、定期的に見直しをしています。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、月1回のミーティング(勉強会)や朝の申し送り等で情報を交換し、気づきや問題点について話し合ったりしながら、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望に応じて、通院の送迎や買い物、自宅訪問や墓参り、また、出張マッサージや散髪の仲介などの支援をしています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間行事である夕涼み会、餅つき大会には、地域の民生委員、区長、老人会の方々がボランティアで参加してくれています。また、地域の消防団にも安全な暮らしを支援してもらっています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期受診を行っています。主治医とは急変時、突発的な場合でも、すぐに連絡が取れる状態にあります。利用者の中には、他の病院にかかりつけ医を持っており、家族同伴にて受診をしています。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師とは、連絡が取れる状態にあり、報告連絡、相談を行っています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院中は、常に面会に行き、主治医より状態の説明を聞いたり、主治医を中心に病院関係者や家族と、退院やこれからの事などの話し合いをもっています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者のご家族には、ご家族、主治医、管理者、看護師を交え、これからのことについて話し合いを行います。ご家族の要望などを伺いながら、事業所で出来る事や不可能なことなどの説明をします。主治医の指示、助言を仰ぎながら、支援に取り組んでいます。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	関連施設合同で、緊急時の勉強会を行っています。また、ホーム内でもミーティングや朝の申し送り時に、看護師より対応の仕方などを学んで、実践力を身に付けられるように努めています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に黒木消防の立会いの下、避難訓練や消火訓練などを実施しています。また、運営推進会議の中でも、民生委員、区長、消防団の協力を得られるように、働きかけています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、一人ひとりに対し、プライバシーの配慮や人生を重ねてきた人として尊重し、プライドや誇りを傷つけないような声かけや対応に心掛けています。個人の記録物については、第三者の目にふれないように気を付けています。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の困難な方には、簡単な返答や頷きで答えられるような働きかけを行っています。職員が先回りをして、答えを誘導する事がないように心掛けています。あくまでも本人の意思を尊重するように努力をしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、また、体調に配慮しながら支援を行っている。介護度の重い方もいるので、離床や入浴などは、柔軟に対応をしている。買い物や外出を希望されるかたには、出来るだけその都度、対応に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族がその人に合った洋服を持ってこられており、離床時に洋服と一緒に選んだり、また、外出時には、身だしなみやおしゃれに気配りをしています。似合っている時は、その都度伝えています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいかを聞いたり、料理の下ごしらえや、味付けのできる方、下膳のできる方、食器洗いのできる方、何も出来ないが教えることができる方、見るだけの方などですが、美味しく食べる事ができるような雰囲気にも努めています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶ゼリー、コーヒー、ココア、紅茶、牛乳、ジースなどで、水分補給に努めている。意思表示の出来ない方には、好みを家族に聞いたり、また、尿量チェックでの水分補給に努めている。献立も偏りが起こらないように心掛けています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は、研修等で口腔ケアの重要性については理解をしており、現在7名の方が、介助にて口腔ケアを行っています。無理強いしないで、その人に合った口腔ケア介助に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便・尿意の訴えない方でも、日中はオムツを使用せずに、下着にパット、紙パンツで、時間毎にトイレ誘導を行っています。ご本人の行動で判断し、トイレに誘導をしているケースもあります。トイレで排泄できるように支援しています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材にも食物繊維の多いものを心掛け、バランスの良い食事や気を付けています。排便コントロールの難しい方は、主治医の指示を受けながら対応をしています。また、適度の運動と水分補給などにも努めています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	勤務の関係と入居者の介護状態に合わせ、時間帯は決まっています（一人で入浴できない方が多い）。週6回、13:30～16:00に入浴を実施し、気持ちよく入浴できるように努めています。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の、休憩は、本人の希望や習慣を優先しています。ベッドの角度や照明、室内温度で、安心した眠りができるように、その人なりのリズムを大事にしています。本人の希望にて主事医の下、眠前薬を服用されている方もいます。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量については、お薬手帳で確認をしたり、主治医や看護師から伝達されており、職員間での声かけやまた、体調や症状の変化の早期発見に努めています。飲み忘れがないように、服薬確認をしています。研修の参加や水分補給にも努めています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜きり、料理の味付け、食器洗い、洗濯物たたみ、干しなど、一人ひとりに合った役割をお願いしています。また、団子作り、梅干漬けなど、季節のものにも力を発揮してもらっています。また、天気の良い日は、外で昼食を食べる事もあります。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの施設に散歩に出かけたり、ホームの食材を買いに、交代で外出が出来るように努めています。また、ご家族と連絡をとり、自宅にもいけるように支援をしています。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った時は、店内で好きな物を選んでもらい、レジで支払いが出来るような支援をしています。使ったお金の報告は、請求書を郵送時に小遣帳をコピーして送ったり、面会時に残高を確認してもらい、サインをもらえるように努めています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族より電話があった場合や本人が連絡して欲しいときは、いつでも連絡が取れるようにし、安心して生活ができるようしています。月1回は、職員より利用者の状況を請求書と一緒に郵送をしています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を感じていただけるような装飾を心掛けています。玄関先や中庭に花を植え、目で見て楽しめる、癒されるような空間作りを工夫をしています。また、照明や温度、香りにも気配りをしています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、気の合った利用者同士でテレビを見られたり、おしゃべりをされたりと過ごされています。また、畳の部屋もあり、好きな時に横になり、寛がれるようにしています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、自宅で使っていた馴染みのあるものを持って来ていただけるようお願いしています。本人が居心地良く過ごせるように、今までの生活に近い工夫を心掛けています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかり、一人で行く事ができるような表示をしたり、また、ベッド柵に鈴をつけて、夜間帯の安全に努めています。風呂場には、屋間は鍵をかけたり、入浴時には、滑らないようにマットを敷く等の工夫をしています。			